

令和3年度（2021年度）
吹田市立図書館点検・評価報告書

令和4年（2022年）12月15日

吹田市立図書館

この点検・評価報告書は、図書館法(昭和25年4月30日法律第118号)第7条の3に基づき、吹田市立図書館の運営の状況について自己評価を行うとともに、図書館協議会による外部評価をいただいて作成し公表するものです。

吹田市立図書館は、「吹田市立図書館基本構想」(平成25年4月策定)を策定し、平成25年度(2013年度)から10年間の図書館活動の指針を明らかにしています。その第2章3のサービス計画の中で3つの基本目標を設定しています。この基本目標に沿って作成したアクションプラン(別表)の課題と各事業について自己評価と外部評価を行います。

吹田市立図書館の3つの基本目標

基本目標 1 地域の情報拠点として、いつでも、どこでも、だれにでも、役立つ図書館サービスを目指します。

基本目標 2 生涯学習を支援して、仕事や暮らしを豊かにする図書館サービスを目指します。

基本目標 3 子育てや学校の支援を通して、子どもの健やかな成長に役立つ図書館サービスを目指します。

評価の基準

- A 取組を実施し、目標を上回る成果があった。
- B 取組を実施し、目標には達していないが一定の成果をあげた。
- C 取組を実施したが、十分な成果をあげることができなかった。
- D 実施できていない。課題の整理、計画の見直しが必要である。

なお、評価にあたっては、目標達成の指標の実績と合わせて、各取組において関連する統計数値並びに取組状況をもって総合的に判断します。また、この基本目標とその取組ごとに、図書館の自己評価をするとともに、図書館協議会から外部評価を得るものとします。

〔凡例〕

文中、表に示している図書館名等は次のように省略しています。

中央図書館→「中央」、千里図書館→「千里」、千里図書館北千里分室→「北千里」、さんくす図書館→「さんくす」、江坂図書館→「江坂」、千里山・佐井寺図書館→「ちさと」、千里丘図書館→「千里丘」、健都ライブラリー→「健都」、山田駅前図書館→「山駅」、山田駅前図書館山田分室→「山田」、自動車文庫→「BM」、予約資料の配本→「配本」

基本目標 1

地域の情報拠点として、いつでも、どこでも、だれにでも、役立つ図書館サービスを目指します。

取組1 図書館施設及びサービス網の整備

事業名	目標達成の指標		実績	
	指標	目標値	R2年度	R3年度
第2次図書館基本構想の策定		実施	—	素案の作成、市民アンケートの実施
サービス網の整備	北千里小学校跡地複合施設整備事業	実施	実施設計の完了、建設工事請負契約の締結	建設工事に着手
	江坂図書館の再整備	実施	—	江坂花とみどりの情報センター跡の暫定利用開始
	自動車文庫次期事業	実施	—	自動車文庫の廃止、予約配本の開始、市立小中学校への定期連絡便の試行開始
広域利用の促進	広域利用している吹田市民の数(北摂7市3町)	延利用者数増	19,543人	20,632人 (前年度比105.6%)
	広域利用している吹田市民の数(大阪市・試行)	延利用者数増	9,990人	9,065人 (前年度比90.7%)

(関連数値) 広域利用している他市市民の数(北摂7市3町)

延利用者数	実績	
	R2年度	R3年度
	8,879人	13,976人 (前年度比157.4%)

[取組状況]

- 現行の「吹田市立図書館基本構想」が平成25年(2013年)4月の策定から10年を経たことから、国・社会の動向や図書館の現状と課題を踏まえ、次の10年間の図書館活動の指針となる第2次吹田市立図書館基本構想の策定に取り掛かりました。
令和3年度は、策定の参考とする市民アンケートを実施し、素案の作成を進めました。
- 北千里小学校跡地複合施設整備事業については、建設工事に着手し、準備を進めました。
令和4年(2022年)11月に供用開始を予定しています。
- 江坂図書館については、Park-PFIによる再整備並びに指定管理者による管理・運営の準備を進めました。令和3年(2021年)10月から閲覧スペースとして、江坂花とみどりの情報センター跡の暫定利用を開始しました。
- 令和2年度の健都ライブラリー開館に伴い、図書館利用の不便な地域はほぼ解消したとして廃止した自動車文庫の次期事業として、令和3年(2021年)9月から来館困難地域において予約資料の配本を開始しました。

[課題]

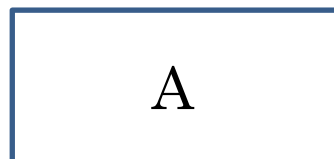
- 吹田市内の図書館網の整備は完了しましたが、様々な理由で来館が困難な市民へのサービス提供の方策の検討が課題です。対策のひとつとして令和3年7月から電子図書館サービスを開始しました。

取組に対する

【図書館の自己評価】



【図書館協議会の評価】



【図書館協議会の意見】

- 既存図書館についても取組内容に応じて、居心地のよい魅力的な空間づくりを進めていく必要があります。若い世代向けにはカフェ空間、おしゃべりオツケー席、ソファ席など、長時間滞在できる仕掛けがあるといいと思います。
- 北千里図書館開館を楽しみにしています。図書館は建物が建って完成ということではないということを改めて考えさせられています。これから市民として利用者として自分たちの図書館にするために、市民が関われることは協力していきたいです。
- 施設自体は、新築移転(北千里)、リノベーション(江坂)と改善されますが対象や目的が違う施設同士の組み合わせの運営を指定管理者に担わせると決定したことは、真の図書館ネットワーク形成を阻害するのではないのでしょうか。市民の反対の声もあり、直営を求める声も多かったと思います。今後、市民の意見を取り入れる方法をさらに模索していただきます。
- 「広域利用している他市市民の数」について、広域利用の促進についての取組の成果が明確に表れていると思います。この指標は、吹田市立図書館のサービスが優れていれば上がってくる数字であり、逆に吹田市民の広域利用は、他自治体の図書館サービスが優れていた場合に上がっていく数字かと思います。

取組2 利用促進

事業名	目標達成の指標		実績	
	指標	目標値	R2年度	R3年度
年間貸出冊数の目標達成 (個人貸出)	貸出点数	4,240,000点	2,504,847点	3,622,360点
広報・情報発信機能の推進	ホームページアクセス推移 (蔵書検索)	経年比増	6,914,676件	8,255,915件 (前年度比119.4%)
	SNS(※)投稿件数 (Facebook)	経年比増	99件	199件 (前年度比201%)
	SNS投稿件数 (Twitter)	経年比増	822件	548件 (前年度比66.6%)
	SNSフォロワー数 (Facebook)	経年比増	696件	690件 (前年度比99.1%)
	SNSフォロワー数 (Twitter)	経年比増	1,783件	2,008件 (前年度比112.6%)
	メールマガジン送信件数	経年比増	63,278件	84,021件 (前年度比132.8%)
	新着図書案内送信件数	経年比増	11,832件	14,720件 (前年度比124.4%)

(※)SNS:ソーシャルメディアネットワークサービス

(関連数値)利用者数 ※年度内に1回以上利用した登録者数。

利用者数	実績	
	R2年度	R3年度
	52,537人	60,264人(前年度比114.7%)

市内在住登録率

市内在住登録率	実績	
	R2年度	R3年度
	25.40%	24.99%(前年度比-1.6%)

利用者1人当たりの貸出点数

利用者1人 当たりの貸出 登録率	実績	
	R2年度	R3年度
	47.68点	60.11点(前年度比126.4%)

予約受付件数

予約受付件数 (内WEB)	実績	
	R2年度	R3年度
	1,130,473件	1,421,227件(前年度比125.7%)
	(974,507件)	(1,205,269件)(前年度比123.7%)

一日平均貸出冊数

		中央 (※1)	BM /配本	千里	北千里	さんくす	江坂	千・佐	千里丘	健都 (※2)	山田駅前	山田
図書	R2	394	311	1,118	565	694	1,013	1,204	912	692	894	537
	R3	851	-	1,369	692	660	1,184	1,415	1,065	945	1,067	622
視聴覚	R2	21	2	91	20	67	74	79	59	52	81	15
	R3	54	-	102	23	69	89	94	66	70	84	18

(※1)中央図書館は令和2年(2020年)12月16日までは臨時窓口での貸出冊数

(※2)健都ライブラリーは令和2年(2020年)11月11日供用開始以降の貸出冊数

[取組状況]

- 年々増加している予約件数については、前年度比125.7%と大幅に増加しました。引き続きのコロナ禍の中、館内の短時間滞在の影響もあるかもしれませんが、予約サービスが図書館利用のスタイルとして浸透していることの現れと考えます。
- 広報・情報発信機能の推進については、ホームページ、SNS、メールマガジン、新着図書案内共に指標とした件数の数値が前年度比で増加しました。なお、Twitterについては、前年度比66.6%と大幅に減少していますが、これは新型コロナウイルス感染症に関する情報発信が前年度より少なくなったこと、また、行事の開催が減り広報の回数が減ったこと等によるものです。

[課題]

- 貸出点数について、コロナ禍前の平成30年度(2018年度)の実績3,542,107点を上回るまで回復しましたが、目標値の4,240,000点は遠く及びません。一方、市内在住登録率は、前年度比で-1.6%の減少ですが、利用者1人当たり貸出点数は前年度比

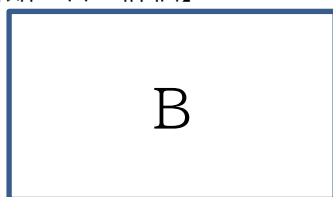
126.4%と、実際に図書館を利用された方は多くの資料を借出しされたことがわかることから、貸出点数の増加には、登録率の向上が必要と考えます。

また、貸出点数に電子図書の数値は含んでいませんが、次年度以降、貸出点数に含めるよう整理します。

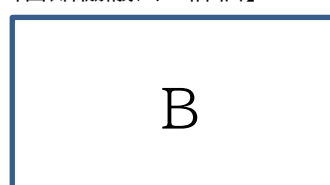
- 広報・情報発信機能の推進については、図書館ホームページや SNS を活用し、積極的に発信を行ってきましたが、対象をしぼった利用や新たなツールの活用も含めた発信方法の研究が引き続きの課題と考えています。なお、新たな情報発信のひとつとして、動画を作成し、図書館ホームページに掲載していますが、定期的な動画の作成には、至っていません。

取組に対する

【図書館の自己評価】



【図書館協議会の評価】



【図書館協議会の意見】

- コロナ禍で仕方ない面はあるのですが、貸出点数が目標の 85%にとどまっています。市民の利用意欲を掻き立てるような選書と、それを支える資料費の確保に努めてください。
- 指標にはありませんが、登録率の向上は重要な課題と捉えました。特に、他市に比べて、図書館活動等で決して劣っているわけではないことを考慮すると、市民に対する図書館の認知度向上が望まれるように思います。
- 課題にも書かれていましたが配信方法に工夫が必要だと思います。今後利用者増えると思います。頑張ってくださいたいです。
- 実際に利用者が活用している SNS をリサーチして使用する事がこれからは求められると思います。Twitter も Facebook もフォロワー数の増加が少ないのは、利用者が必要として情報を確認しており、興味を持たなければ目にとまらない発信であるためだと考えます。

取組3 資料と情報の提供

事業名	目標達成の指標		実績	
	指標	目標値	R2 年度	R3年度
成人サービス	講演会等行事 参加人数	1,200 人	599 人	1,503 人(※1)
レファレンス(相談業務)	調査回答件数	経年比増	6,669 件	10,455 件 (前年度比 156.8%)
地域資料の収集・保存 と活用	新聞等地域件 名データ新規 作成件数	—	1,166 件	—(※2)
行政支援サービス	相談受付件数	経年比増	5件	20 件 (前年度比 400%)
児童サービス	行事参加人数	20,000 人	1,376 人	7,371人
	冊子発行部数	13,000 部	17,589 部	28,500 部
YAサービス	YAサポーター 行事参加人数	40 人	—(※3)	34 人

(※1)健都ライブラリー指定管理者自主事業は除く

(※2)令和3年度は、実績なし。

(※3)令和2年度の YA サポーターについては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施なし。

[取組状況]

- 行政支援サービスの関連として、市役所内他部署と連携して、「認知症」(高齢福祉室)、「地球温暖化」(環境政策室)、「自殺防止」(地域保健課)、「動物愛護」(衛生管理課)等に関して主に特設コーナーの設置を実施しました。今後も図書館の情報資源を活用して他部署との連携の取組を進めます。
- 市民から心に残る1冊、子供たちと一緒に読みたい1冊、子供に読んでほしい本を募集して、応募いただいた本の中から選定した冊子「市民が選ぶ子どもと読みたい100+5冊の本」を発行しました。この取組は、平成21年(2009年)発行の「市民が選ぶ子どもたちに読ませたい100+5冊」を発行から約10年を経たことから改訂をしたものです。
- 令和3年(2021年)7月に開始した電子図書館サービスについては、図書館利用が少ない YA 世代向けのもの、英語学習に適した音声付の電子図書を積極的に購入しました。

[課題]

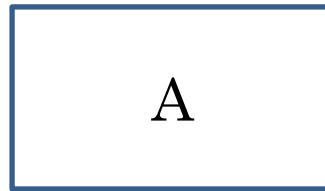
- 新型コロナウイルス感染拡大防止対策によるサービスの制限により大幅に減少した各取組の指標実績について、令和3年度は回復しました。今後、新型コロナウイルスの感染状況を注視しながら、各種取組の内容等の検討を進めることが課題です。
- 地域資料については、紙媒体での発行がなく、インターネット公開のみの資料の収集と保存が課題です。また、既存の紙の資料のデジタル化による保存と管理も早急に検討を進める必要があります。

取組に対する

【図書館の自己評価】



【図書館協議会の評価】



【図書館協議会の意見】

- 行政支援サービスが進んでいるのが評価できると思います。資料と情報の提供によりあらゆる市民に必要とされる図書館となることが求められていると思いますが、足元の市役所内他部署との連携もその一歩として今後さらに進めていってください。

基本目標 2

生涯学習を支援して、仕事や暮らしを豊かにする図書館サービスを目指します。

取組1 施設や地域との連携

事業名	目標達成の指標		実績	
	指標	目標値	R2年度	R3年度
吹田市出前講座の充実と活用	出前講座等講師派遣実施回数	6回	-(※)	2回

(※)出前講座等講師派遣については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施なし。

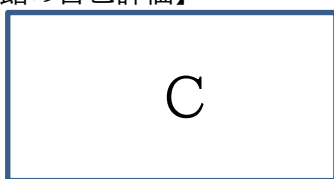
[課題]

○出前講座等講師派遣については、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じながら、令和3年度は2件、実施することができました。

一方、前年度からの課題となっているオンラインでの開催や動画の配信等新たな実施方法の検討については、具体的に進めることができませんでした。

取組に対する

【図書館の自己評価】



【図書館協議会の評価】



【図書館協議会の意見】

○コロナ禍の中で、世の中の状況が許さなかったのだから、それは図書館としての努力義務を怠ったということにはならないと思います。少なくとも、学校とはきっちりつながっていたのだと思っています。世の中の状況が許す中で、できることを精一杯やったということではないのでしょうか。

○課題にも記載されています通り、この目標を掲げる以上、オンライン開催や動画配信などについては、少なくとも検討を進められるべきかと思います。

取組2 自己実現の援助

事業名	目標達成の指標		実績	
	指標	目標値	R2年度	R3年度
ボランティア活動の推進	ボランティア総数	955人 (※1)	592人	580人 (※2)

(※1)目標値は令和4年度に1,000名登録を目標に、年45名増を目指しています。

(※2)ボランティア登録状況 25団体 580人(令和2年度 25団体 592人)

(関連数値)「図書館フレンズ」登録者数

実 績	
R2年度	R3年度
58人	58人

[取組状況]

- 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、音訳・対面朗読ボランティア養成初級講座、同中級講座、デージー製作講座、音訳・対面朗読スキルアップ講習会が中止となりましたが、令和3年度は、感染症拡大防止対策に工夫をこらし、音訳対面朗読ボランティア養成初級講座(全11回、延べ54名)ならびに点訳ボランティア養成中級講座(全10回、延べ29名)を実施することができました。

[課題]

- 図書館における「自己実現」について、ボランティア登録人数以外の評価指標を探ることが引き続いての課題です。

取組に対する

【図書館の自己評価】

B

【図書館協議会の評価】

B

【図書館協議会の意見】

- 講座開催回数も延べ人数も十分だと思います。今後、障がい者サービスを充実させるためには、若い世代（高校生、大学生）がボランティアの中心世代になってほしいです。
- 令和4年度 1,000 名登録目標に対して、1 年前でまだ6割に達していない。コロナ禍とはいえ、何らかの対策が必要だと思います。
- 自己実現をどう捉えるのかと関係しますが、ボランティア活動以外の関わり方を含めた自己実現の在り方もあって良いように思います。

取組3 図書館利用に障がいのある人へのサービスの充実

事業名	目標達成の指標		実績	
	指標	目標値	R2年度	R3年度
視覚障がい者サービス	対面朗読実施回数	—	77回	332回
	録音図書貸出件数	2,800 タイトル	3,332 タイトル	3,000 タイトル
	サピエ図書館(※)ダウンロード件数	—	1,287 件	1,250 件 (前年度比 97.1%)
来館困難者へのサービス	郵送貸出	—	176 冊	289 冊 (前年度比 164.2%)
聴覚障がい者サービス	手話通訳の手配 (希望される場合)	—	2回	3回
障がい児サービス	資料の充実 (さわる絵本の所蔵数)	経年比増	13 点	16 点 (前年度比 123.0%)

(※)サピエ(視覚障害者情報総合ネットワーク)図書館

全国の点字図書館や公共図書館が製作または所蔵する本の点字データや音声データを集積し、視覚障がい者などの方々がパソコンや携帯電話でダウンロードすることにより利用できるになっている。また全国の図書館が所蔵する約66万タイトル以上の資料のデータを利用することができる。

[取組状況]

- 毎年行っている「障がい者サービス利用者懇談会」を、昨年度に引き続き、電話をかける対話形式で開催しました。84名と会話し、要望を伺ったり、疑問にお答えしました。また、図書館への感謝の気持ちを伝えてくださった方が大勢おられ、喜びと同時に身の引き締まる思いがしました。
- ボランティアの協力を得て、音声デイジー図書(※1)99タイトル、点訳図書39タイトル、さわる絵本1タイトルを製作しました。直接、もしくはサピエ図書館を通じて、市内の利用者だけでなく、全国の図書館においても利用されました。

- 来館が困難な方を対象とした、一般の図書・雑誌の郵送貸出は、登録者数、延べ利用者数、貸出冊数のいずれも増加しました。
- 千里山・佐井寺図書館のユニバーサルコーナーに、さわる絵本の展示コーナーを設け、手に取って見られるようにしました。また、さわる絵本等をセットにして、小学校の支援学級等へ毎月団体貸出し、子供たちへの読書支援を行いました。
- マルチメディアデージー（※2）を利用しやすくするために、図書館システムに書誌と所蔵情報を登録し、障がいの有無に関わらず、どなたでも利用できるもの（Ver. BLUE）については、千里山・佐井寺図書館のユニバーサルコーナーに配架しました。

[課題]

- 対面朗読サービスは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をとり、時間や場所に制限を設けて再開し、利用されています。あわせて、オンライン会議システムによる対面朗読サービスを令4年1月から開始しましたが、興味を持つ方はあっても、実際の利用につながっていないのが課題となっています。

(※1) 音声デージー(デージー図書)

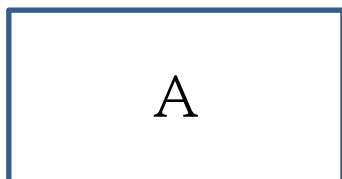
国際規格である DAISY フォーマットによりデジタル録音された音声図書。パソコンで音声データを録音し、編集作業を施して、活字本を読むような形で耳からの読書ができるようにした音訳図書。専用の再生機(プレクストーク)や再生ソフトで聞くことができ、本と同じように見出しやページで呼び出したり、飛ばし読みができる

(※2) マルチメディアデージー

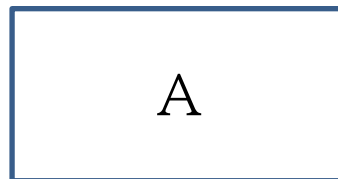
音声と一緒に、文字や画像が表示されるデジタル図書。読み上げている場所の色が変わるハイライト機能や、スピード、文字の色や大きさ、背景の色などを変える機能がある。

取組に対する

【図書館の自己評価】



【図書館協議会の評価】



【図書館協議会の意見】

- 対面での懇談会の開催が無理でも、電話による要望調査を実施したのは、評価できると思います。対面朗読サービスにオンライン会議システムを取り入れたのも重要な成果だと思います。このシステムを使うことに慣れておられない場合、サポートが必要だと思います。基礎疾患を持っていて、このシステム必要としている人もいると思うので、ぜひ工夫をお願いします。
- SNSと併用してサービスを充実できるよう頑張ってくださいたいです。
- 本当のバリアフリーは、境目のない同じ場所を共有できることではないでしょうか。

取組4 特色あるサービス

事業名	目標達成の指標		実績	
	指標	目標値	R2年度	R3年度
ビジネス支援サービス	関連施設との連携事業	1	1回	1回
多文化サービス	多言語による読み聞かせ等の行事の実施	2回	— (※)	— (※)
	外国語資料所蔵数	経年比増	6,015冊	6,137冊 (前年度比102%)
健康・医療情報サービス	関連講座の実施	実施	2回	2回
地域経済への貢献	実施事業数(広告事業)	5件	3件	5件

(※)多言語による読み聞かせの行事については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施なし。

[取組状況]

○引き続きのコロナ禍の中ではありましたが、各目標値について、関連施設等のご協力により、ビジネス講座1回、健康・医療情報講座2回を開催することができました。

[課題]

○ビジネス支援サービス、健康・医療情報サービス、多文化サービスについて、今後は非来館型サービス(※)の検討も必要です。また、多文化サービスにおいては、電子図書の活用も進めます。

(※)非来館型サービス

市民などが図書館に来館せずに利用するサービス。インターネットを介して利用するサービスも含む。電子図書サービス、郵送貸出、レファレンス(電話、郵便、ファクシミリ、Web サイト)、Web での新規利用登録、SNS での情報発信、オンラインでの対面朗読など。

取組に対する

【図書館の自己評価】

B

【図書館協議会の評価】

B

基本目標 3

子育て支援や学校の連携を通して、子どもの健やかな成長に役立つ図書館サービスを目指します。（「子ども読書活動推進計画(改訂)」の推進）

取組1 子どもへの読書活動支援の充実

事業名	目標達成の指標		実績	
	指標	目標値	R2 年度	R3 年度
子育て支援サービス	ブックスタートのひろば、おひぎで絵本等参加人数	23,000 人	401 人	2,665 人
学校連携	図書館見学等参加人数	2,300 人	619 人	1,285 人
	団体貸出冊数	—	10,148 冊	11,231 冊 (前年度比 110.7%)
講座・講演会等の開催	児童文学に係る講座・講演会等の参加人数	1,700 人	89 人	405 人
吹田市出前講座その他講師派遣	児童生徒の読書活動の振興を目的とする出前講座、講師派遣事業参加人数	430 人	—(※)	22 人

(※)出前講座等講師派遣等については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施なし。

[関連数値]

ブックスタートのひろば、おひぎで絵本 実施回数

	平成30年度(※)	令和2年度	令和3年度
ブックスタートのひろば	1,224 回	54 回	292 回
おひぎで絵本	373 回	32 回	168 回

(※)平成30年度は、コロナ禍前の数値

[取組状況]

○令和3年(2021年)9月から中央図書館内に子ども読書活動支援センター機能を設置し、吹田市立小・中学校への月1回の定期連絡便による配本を試行しています。学校からの団体貸出などの依頼窓口を一本化して対応することで、効率的かつ効果的に連携を進めま

す。

- 平成26年(2014年)7月から作成、配布していた「読書貯金 すいぼんつうちょう」について、ガンバ大阪プロパティ(ロゴ)と吹田市イメージキャラクター「すいたん」デザインのものを作成し、吹田市立小学校全児童に配布する取組を実施しました。
- 「抱っこで絵本講座」の動画を作成し、図書館ホームページ「子育て支援のページ」での公開の準備を進めました。※令和4年(2022年)4月公開。

[課題]

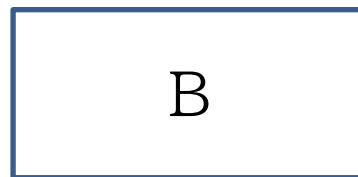
- ブックスタートのひろば、おひぎで絵本、講座・講演会等については、新型コロナウイルス感染拡大防止策を取りながら、可能な範囲で実施しました。直接本の魅力に触れる良さや、読み手や講師との触れ合いを大切にしながらも、感染拡大防止策の徹底と並行した行事の在り方の検討が引き続きの課題です。
- 令和3年9月から試行を開始した学校連絡便については、配本頻度の見直しを含め、発展的に継続させることが課題です。
- 「吹田市子ども読書活動推進計画(改訂)」が平成25年(2013年)の改訂から約10年を経過していることから、子供を取り巻く社会環境の変化に対応した第2次計画の策定が課題です。

取組に対する

【図書館の自己評価】



【図書館協議会の評価】



【図書館協議会の意見】

- 学校連絡便が運用されるようになったことは、良い点だと思います。
- 子どもの本に関する講座や講演会などは、このコロナ禍でもかなり開催されたと思っています。途切れてしまうと人の関心も方向が変わってくるので、途切れず続けて開催してきたことは、高評価です。これからはもっと多様な形の講座が開催されることを期待します。
- 地域の子ども文庫や学校へ図書館司書の派遣。年 1 回でも本読みの支援であるとか、状況視察など考えていただけるとありがたいと思います。
- コロナ禍の影響がまだまだ大きいと思いますが、少しずつ利用が回復しつつあることがわかり、よかったです。
- 子ども読書活動支援センター機能が設置され、小中学校への定期連絡便が開始されたのは、大きな成果だと思います。定期連絡便は、ぜひ、本格実施を実現し、運行回数を増やすなどサービス向上を目指してください。

	令和3年度 図書館事業評価一覧	自己評価	協議会評価
基本目標 1	地域の情報拠点として、いつでも、どこでも、だれにでも、役立つ図書館サービスを目指します。		
取組み	1 図書館施設及びサービス網の整備	A	A
	2 利用促進	B	B
	3 資料と情報の提供	B	A
基本目標 2	生涯学習を支援して、仕事や暮らしを豊かにする図書館サービスを目指します。		
取組み	1 施設や地域との連携	C	C
	2 自己実現の援助	B	B
	3 図書館利用に障がいのある人へのサービスの充実	A	A
	4 特色あるサービス	B	B
基本目標 3	子育てや学校の支援を通して、子どもの健やかな成長に役立つ図書館サービスを目指します。		
取組み	1 子供への読書活動支援の充実	B	B
総合評価	<p>【図書館の自己評価】</p> <p>令和2年度の健都ライブラリーの開館により、市内の図書館網の整備が完了し、図書館利用不便地域がほぼ解消されたことから、令和3年(2021年)8月末に自動車文庫を廃止しました。北千里小学校跡地複合施設整備事業では、新北千里図書館の準備が進んでいます。令和4年(2022年)11月供用開始予定です。また、江坂図書館についても、課題であった施設の狭隘等の解消に向けて、再整備を進めています。</p> <p>新たな生涯学習ツールとして導入が検討されていた電子図書については、コロナ禍における非来館型サービスに対する要望に対応するものとして、令和3年(2021年)7月から「すいた電子図書館」を開始しました。今後、従来の紙媒体の資料とあわせて、それぞれの特性を生かしたサービスを提供していきます。</p> <p>学校との連携に関して、物流が長年の課題となっていました。令和3年(2021年)9月から、吹田市立小中学校全校への定期連絡便の運行を開始することができました。令和4年度(2022年度)末に予定している「第2次吹田市子ども読書活動推進計画」の策定と</p>	B	B

	<p>合わせて、学校との連携の在り方を検討し、学校連絡便の運行継続を目指します。</p> <p>コロナ禍における長期に渡るサービス制限下において、情報や資料の提供、行事等の在り方など新たな課題が浮き彫りになりました。それらの課題を整理し、次期図書館基本構想(『(仮称)吹田市立図書館サービス基本計画』)の策定において、目標値の見直し等、市民の役に立つ図書館サービスの検討を進めていきます。</p>		
	<p>【協議会の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的にみて、吹田市立図書館のサービスは、高い状態で維持されていると考えています。特に、広域利用の促進、行政支援サービス、郵送貸出など、間接的サービスについて、数値的にも内容的にも成果が上がっていると考えます。 ・新図書館の建設による不便地域の解消や既存図書館のリニューアルによる利便性向上など、利用者目線の運営管理が行き届いており、更なる発展を期待します。また、コロナ禍において、感染症拡大予防策を講じるとともに、多岐にわたる事業を展開され大変なご苦労があると思います。今後も DX を進めつつ、隅々まで行き届くサービスを期待いたします。特にこども世代はデジタルネイティブ世代でもあり、大人が彼らから学ぶことも多く、双方向のコミュニケーションを取ることも重要なことだと思えます。 ・コロナ禍という特殊環境ではありますが、そういう状況下においてのサービスを考えなければならないと思います。 ・イベントなどについてのオンライン開催や動画配信など、コロナ感染拡大防止を行いつつサービスを維持・向上させる取り組みについては、検討を進めていただければと考えております。 ・電子図書館はこれから発展していくと思います。遅れることのないよう頑張ってください。 ・このコロナ禍で、図書館の電子化が加速するのも当然なのだと思います。でも紙媒体のものも、そして対面の対応もコロナ禍でもより良い形で進めていただきました。 		

	<p>いです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が続くなか、感染拡大防止に努めながら図書館サービスを継続し、市民の図書館利用要求に応えようとしたことは、評価できると思います。非来館型サービスとして、電子図書館を本格的に開始しましたが、継続的な予算確保がないと市民の期待に応えられないと思います。今後、電子図書の予算を確保するとともに、確固とした蔵書となる紙媒体の資料費の増額に努め、市民の資料要求に応えられるようにしてください。 ・吹田市立図書館は、よく努力されておられるのですが、一般市民に通じていない面があるように思われ、広報の仕方など検討してはと思います。 ・北千里図書館の開館を北千里市民だけでなく、吹田市民が期待していると思います。北千里図書館を支える利用者の会議のようなものも考えていただけたらと思います。 ・図書館サービスを支える正規職員の司書を採用していることは、誇りに思います。サービスを維持・発展させるためにも、研修を保障して、いい職員に育ててってください。 		
--	---	--	--